

2014 HIGHER SCHOOL CERTIFICATE
EXAMINATION

Japanese Background Speakers

(Section I — Listening and Responding
Part A and Part B)

Transcript

Familiarisation Text

FEMALE : 来年のワールドカップ、日本もオーストラリアも行けるといいですね。

MALE : そうですね。

FEMALE : そして決勝で日本とオーストラリアが対決するともっといいです。

MALE : その時にはぼくはオーストラリアが勝つといいと思います。

Section I — Listening and Responding

Part A

Question 1

母 : かずひろ、三者面談の時のことだけど、あなた、先生に将来は家業を継ぐので、大学に進学する気はありませんっていったわよね。

息子 : 言ったけど、何か問題でもあるの？うちは江戸時代から十八代続いている畳屋で、うちの家業を継ぐのは小さい頃から当然だと思ってたし、おじいちゃんの遺言でもそう言ってたじゃん。

母 : それはそうだけど。。。私も、お父さんも現実的に考えて反対よ。

息子 : どうしてさ。

母 : 私たちを見たらわかるでしょう。おじいちゃんの頃とは違ってお客さんも減って、生活が苦しいの。それでもやっとの思いであんたを塾に行かせて、県内で有数の私立校に行かせたのに。それに、あんたは学校で成績も良いから、いい大学に行って、医者になってもなって、私たちを楽にしてよ。親孝行だと思って。

息子： もちろん、母さんたちには感謝しているし、親孝行をするつもりだよ。でも、お金を稼ぐだけの人生は正直ごめんかな。僕は好きな畳屋の仕事をして生計を成り立たせたいんだ。畳屋の経営が厳しいのはわかってるけど、それは母さんたちが昔のやり方をやり続けているからじゃないかな。

母： どういう意味よ。

息子： 母さんたちが悪いって意味じゃないんだ。ただ、時代とともにお客様のニーズもかわってきているからそれに合わせないと。例えば、インターネットを使ったりして名前を広めて、もっとお客さんにアピールするべきだよ。店のウェブサイトも作ってみたんだけど、どう思う？あと、海外にも畳の素晴らしさをわかってくれる人がいるはずだから、海外に向けて売り出すのもいいんじゃないかな。将来的には海外に店を出すつもりだよ。

母： 海外なんてふざけたこと言ってるんじゃないわよ。売れるわけないわ。それにあんたは英語をしゃべれるの？外国にすら行ったことがないじゃない。うちのローンをどうにかするためにも、たくさん稼げる仕事に就いてよ。とにかく、大学よ、大学に行きなさい。

息子： そんな無茶苦茶なことを言わないで話を聞いてよ。他の会社に先を越されたらおしまいだし、善は急げだよ。お店の運営の仕方自体は父さんや母さんから学べるし、僕はもう英語をオンラインで勉強しているんだ。通信教育の専門学校も調べてあって、仕事をしながら経営学を勉強することも可能だよ。大学に行かなくても成功している人はたくさんいるでしょ。

母： 何甘ったれたこと言ってるのよ。現実はまだ厳しいのよ。もう、話にならないわ！お父さん、ちょっと来てください。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 1

最近のスポーツ界では男女平等化が進んできています。今までは男性のみのスポーツだったラグビーやサッカーも、最近では女性のチームができています。しかし状況はまだまだ平等とはほど遠いものです。

サッカーの日本代表チームがロンドンオリンピックへ行った時のことです。通常、オリンピック選手たちはエコノミークラスを利用します。ところが、このとき男子チームだけが、日本サッカー協会の特別な配慮により、ビジネスクラスで行きました。このニュースは各国の新聞に報道され、話題になりました。プロのサッカー選手は、男性と女性で年棒にも大きな差があります。こんな不平等なことがあっていいのでしょうか。

また、オリンピックを例にとってみると、現在でも男性のみの競技がいくつかあります。例えば、ボクシングや近代十種などです。今後、女性の参加が認められる競技が増えてくると思いますが、まだまだ時間がかかると思われます。

昔からジェントルマンスポーツだったゴルフは、いまだに男性の力が大きいようです。男性しか会員になれないクラブもあり、そのほとんどが歴史のある古いクラブです。マスターズで有名なゴルフクラブは、最近初めて女性メンバーの入会を承認しました。一般のゴルフコースでも、クラブ会員はほとんどが男性で、女性の会員はまだまだ少ないのが現状です。

これから先、女性がもっといろいろなスポーツに参加できるよう、私たち男性も考えていく必要があるのではないのでしょうか。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 2

私は、田中さんの意見におおむね賛成しますが、反対する点もあります。確かにスポーツの世界では、男性の方がどうしても優勢になってしまいます。昔は女性の社会的立場が低かったので、スポーツなどをする機会もあまりなかったのだと思います。最近は女性の社会進出が進むにつれて、スポーツ界への参加も増え、いろいろなスポーツに挑戦できるようになりました。

女性がスポーツ界での地位向上を主張するのはいいことだと思いますが、女性と男性が体力的に違うということも認識するべきだと思います。

例えば、テニス界では4つのメジャートーナメントすべてで、男女の優勝賞金と同じ額になりました。でも男性は5セット、女性は3セットの試合をします。男性は接戦であれば5時間近くかけて戦うこともあります。それに比べて、女性は2セットを取れば勝ちなので、平均的な試合時間は男性に比べてかなり短いのです。それなのに優勝賞金額が同じだというのは、本当に男女平等なのでしょう。私は納得がいきません。観客に人気のある男性の試合の方が、スポンサーにとっても魅力的なのです。このように、スポーツの世界では男女の肉体的な違いがあるので、すべて平等にすることはできないのです。これは男女差別ではないと思います。